

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 , 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	社会福祉法人 緑ヶ丘学園 認知症対応型グループホーム 稚内緑寿苑	評価実施年月日	平成20年11月7日
評価実施構成員氏名	福本、萩原、藤原、金子、本間、飯田、吉野		
記録者氏名	福本	記録年月日	平成20年11月9日

北海道

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	法人の基本理念を全職員が共有し、介護を展開しております。理念「すべての人たちの人間としての尊厳が守られ、豊かな人生を営むことができるよう多様な福祉サービスを創意工夫し、総合的に提供すること。」をすべての職員の基本理念としております。	○	法人の理念を事業展開の中心において、日常の業務を行うよう理事長等から全職員に指示されており、今後とも理念の具現を図っていくことが、法人の目的となっている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員採用時に理念を伝え、理念を携帯し、意識づけを行うよう取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	パンフレットに理念を記載し、理念を広く伝えていく工夫をしている。理念を運営推進会議において説明している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	隣近所の方から定期的にお花をいただいたり、利用者の趣味（例えば短歌）等の援助をしていただいている。玄関にベンチを置き、挨拶や会話が気軽にできるよう努めている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会のお祭りに参加し、地域の方達と触れ合い、交流が促進できるよう努めている。		
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の高齢者等が見学に来た場合は、介護保険のしくみや疑問に思っていること等を説明している。	○	地域の老人会の集まりに出席し、質問や相談を受ける機会等を設けて行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	法人全体で外部評価を理解しており、今後とも法人の理念を理解し、常に法人の理念を共有し、感謝と尊厳の念を持ちつつケアに専念して行く。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、利用状況やサービスへの取り組み等報告を行い、意見を取り入れ、サービスの向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市担当者が委員となって地域ケア会議に出席しており、市役所職員から連絡を受けたり、情報の提供を行ったりしている。	○	親施設の特養稚内緑風苑は、厚生労働省指定のユニットリーダー研修実地研修施設として、全国より研修者がきているので想いを共有し、一層サービスの向上を図っていく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	北海道社会福祉協議会・北海道地域福祉生活支援センターで発行している「地域福祉権利擁護事業」「成年後見制度」のパンフレットを職員全員に配布し、説明している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	「稚内市高齢者虐待対応マニュアル」や認知症介護研究・研修センター発行の「高齢者虐待を考える」を利用する等して、高齢者虐待防止関連法を学んでいる。		
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は、契約書、重要事項説明書を書面、口頭で説明し、疑問点や把握しにくいこと等の質問を聞き対応している。また、利用者の状態変化により、契約解除になる場合も説明している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者が意見を話しやすいような雰囲気作りに努め、外出等の参考になっている。 運営推進委員会にも利用者が出席し、外部者へ話せる機会を設け、運営に活かし反映させている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	家族等が面会に訪れた時や電話で利用者の状況や受診等の報告や状況について報告を行っている。 金銭管理を職員が援助している方は、金銭出納帳を明示し、ご家族にサインをいただいている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の意見等が現れやすいよう、できるだけ家族の面会時には、お会いするようにしている。 運営推進会議に家族も出席し、外部者へ話せる機会を設け、運営に反映させている。	○	親施設特養稚内緑風苑家族の会に全員入会することになっておりますが、家族の会の集まりを行っていないのでなるべく早いうちに行い、今後は、特養利用者の活動と一緒に参加することを検討していきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	法人常務理事及び代表者も全職員と面接を行っており、意見・要望を聴いている。 全体ミーティングで意見を聞きだし反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	職員が急に早退する時や休む時等、状況変化に柔軟に対応できる体制作りに努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	平成20年4月開設以来、異動や離職はないが、今後予想される場合は、充分配慮して行きたい。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外の研修をパート職員にも積極的に受ける機会を提供しており、全体会議で報告したり復名書を全職員が閲覧しサービスの向上に取り組んでいる。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	北海道グループホーム協議会（道北ブロック）主催のスタッフ研修会や他グループホームの見学等を通してサービスの質を向上していく取り組みをしている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	個人面談を行い、意見や要望を聴く機会を設けたり、休憩室を設置している。	○	職員のメンタルヘルスには、充分配慮と注意をして行きたい。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	平成20年度より目標管理制度を導入し、職員が向上心をもって働けるよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	事前の面談で不安なこと等、本人自身からよく意見を聴き、本人が利用を受け止められるよう努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族の困っていることや不安なことをよく聴き、アドバイスをしたり、事業所として対応できることをお話ししている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた時、本人と家族等の状況をよく聴き、どのような対応が適切か提案したり、担当のケアマネージャーとよく相談するようアドバイスしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に事業所を見学してもらい、本人が納得してサービスを利用するまで職員が何回か訪問し、徐々に受け入れられるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は、利用者から癒されたり、会話や外出、行事等で喜怒哀楽を共有し、お互い支え合う関係を築くよう努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の面会時や外出時、利用者の状況等を報告し、共に本人を支えて行こうとする関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	利用者と家族、職員と一緒にコミュニケーションが図られるよう食事会に行ったり、外出や外泊で家族とのより良い関係が築かれるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	以前からの趣味の会合に出席し、馴染みの人と交流したり、美容室に入居前から行き続けている方もいる。また、知人等が来苑した時には、気軽に来ていただけるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係が上手くいくよう、食卓テーブルの位置を工夫したり、利用者同士の関係に悪い兆しを感じられたら間に入り、上手くいくよう努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用が終了した方は、まだいないが、今後出てきた場合、培われた関係を大事にしていきたいです。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は、日々の利用者との係りの中で思いや暮らし方の希望、困難な場合は、家族から聴いたり、本人の表情、行動等から意向を確認するよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に家族に生活歴シートの記入をお願いしている。また、どのような暮らし方、サービスを受けてきたかを把握し、サービスの提供に活かすよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている。	1日の生活リズム・パターンを自然なリズムで最大限保たれるようデータを取り、総合的に把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	アセスメントは、本人、家族、職員がみんなで探り、本人がより良く暮らすための介護計画となるよう作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	現状に即した新たな介護計画となるよう、利用者の状態変化に応じて見直しを行い作成している。	○	さらに現場で実践的な介護計画となるよう見直しを行っていきたい。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	水分・排泄・食事や行動、状態等個別に記録し、介護計画に活かしている。	○	介護支援経過記録をより実践へ反映させて行きたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人や家族の状況に応じて、通院の支援や緊急な外出・外泊の支援に柔軟に対応するように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議に民生委員が出席し、意見等をいただいている。 アクティビティへの支援をボランティアに協力をお願いしたり、消防署等と連携をとっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の意見を聴き、訪問美容のサービスを利用していただいている。 福祉用具関係は、本人の意向や必要性に応じてメンテナンス等支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域ケア会議で権利擁護の学習会を聴いたり、運営推進会議に参加を求め、意見等を聴いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前の受診状況を把握し、本人及び家族等が納得したかかりつけ医と係れるよう支援している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医に受診し、医師の指示を仰ぎ支援している。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	土日以外1時間半看護師を確保し、健康管理や医療的な事を相談し、支援している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	治療処置等で本人の心身負担が軽減されるよう、医療関係者とよく相談し、早期に退院できるよう努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	運営方針として重度化した場合等、事業所の対応方針を定めており、契約時は、本人、家族に説明している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化になってきた場合、本人や家族、かかりつけ医等とよく相談し、チームで支援できるよう努めて行きたいです。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	入居される場合は、住み替えによる環境変化のダメージを最小限に抑えるよう、本人の要望をよく聴き、使い慣れた家具等の持ち込みや本人がおちつく環境ができるよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	職員は、利用者の尊厳が守られるよう留意し、年長者として言葉使いや語調に気を付けている。 記録物は、書棚に入れ個人情報の取り扱いに注意している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	職員と本人に係る場面で利用者が納得した支援をしている。 誕生会は、本人の希望を聞いたり外出等も利用者自身が決定している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者のペースに合わせた支援をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	利用者に応じて化粧の援助を行ったり、本人の望む美容室へ行けるよう努めている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者と一緒に栽培した野菜を食材として使用し、調理に取り入れている。 盛り付けや下準備、後片付けも利用者と職員が一緒に行い、食事も職員と利用者が同じ席で食べ、楽しい雰囲気づくりができるよう心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	利用者の嗜好物を把握し、それらをできるだけ提供するよう支援している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	出来る限り自立して排泄していただけるよう、排泄パターンを把握し、本人の生活リズムにそった支援を行っている。排泄を失敗した時にも自尊心を傷つけないよう配慮している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴を拒む人に対しては、言葉かけを工夫したり、一人一人に合わせた入浴支援を行っている。また、出来るだけ入浴も本人の希望にそうよう努めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	利用者の体調・睡眠状況を把握し、安心して眠れるよう傾聴や暖かい飲み物の提供を行ったりしている。 日中は、なるべく活動的に生活できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴を把握し、家事や畑仕事等をつうじて、利用者に役割を持っていただき、互いに楽しみ生活にはりをもってもらえるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者の金銭管理能力により支援し、職員が家族より金銭管理を依頼されている方も外出時のお金等は、本人が支払っていただけるようお金を手渡す等の工夫をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	外食や買い物、散歩等に出かけたり、なじみの美容室へ行くよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	利用者の意向を聞き、年間行事計画をたて、地域のお祭りや果物狩り等家族の協力を得ながら支援している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は、本人が直接かけたり、電話が上手くかけれない場合は、支援している。またポストへの投函を援助している。	○	手紙が援助なしで書けない方にも利用を促して行きたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族の希望があれば居室に宿泊していただいたり、きちんとした挨拶、おもてなしを心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束については、禁止の対象となる具体的な行為を全ての職員に説明している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	出て行く気配等を職員が見逃さないように対応し、夜間以外施錠しないように取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	つかず、離れず自然な形で見守りを行えるようプライバシーに配慮しながら行うよう努めている。 夜間は、定期的に利用者の様子を確認し、利用者に対応しやすい位置にいるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	状況に応じて危険が伴う物は、保管したり置き場所を工夫する取り組みをしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハットに関する報告、記録が整理、保存され共有認識を図っている。また、他事業所で実際に合った事例を出し、事故防止に取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署の協力を得て、全ての職員が、普通救命講習を受け、救急手当や蘇生術の研修を受けている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力を経て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方等、年2回利用者とともに行う。また、グループホームと法人が連携し、火災等に備え、緊急連絡網を整備している。		
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	ヒヤリハット報告書が提出された場合、本人の起こり得るリスクについてご家族に連絡、報告している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	バイタルチェックや食事・水分摂取量、排泄、睡眠状況を記録し、体調や表情の変化も見逃さないよう早期発見に努め、連絡簿に記載し、職員全員が共有できるようにし対応している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬ファイルを作成し、薬のはたらきや副作用を把握し、利用者の能力に応じて服薬介助し、身体状況の変化を確認している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	食材の工夫や散歩等体を動かす機会を設けて、自然排便ができるよう取り組んでいる。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	利用者に合わせた歯磨きの支援をし、食後の歯磨き、就寝前は、義歯の洗浄、イソジンでのうがいを行っている。	○	本人の意向もあるが、いれ歯の管理や歯みがきもいっそう力を入れて行きたい。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・栄養摂取量を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。栄養士が献立を立て、栄養バランスに配慮している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者または、家族に同意していただき、職員ともに予防接種を受けている。予防として手洗い時もペーパータオルを使用し、玄関にも手指消毒液を置き行っている。手洗い・うがいを奨励し、排泄介助時は、手袋を着用して対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板やふきん等は毎晩漂白している。 食材の残りは、処分して対応している。 食材については、近隣の特別養護老人ホームより、毎日クーラーボックスに入れて冷蔵庫に搬入し、調理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関まわりは、ベンチやプランターを設置し、季節感を演出できるように工夫し、家庭的な雰囲気ができるような工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間等に植木や花を置いたり、テーブルやソファも利用者が団欒しやすいよう配置を工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下に長椅子を置き、一人で過ごしたり、気の合う利用者同士でくつろげる空間をつくっている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、本人の使い慣れた家具等が持ち込まれ、家族の写真が飾られ、本人が居心地良い場となるよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがなく、換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	居室等は、一定の時間帯に換気をしており、温度・湿度は、朝、昼、夕と1日3回計測し調整している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	家具の配置や敷物等転倒の危険性を常にチェックしたり、浴室やトイレ等居住環境が、安全確保と自立への促進へとつながるよう配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	「どのようにしたら本人がわかりやすく混乱せず行っていただけるのか。」を追求し、状況に合わせた環境整備になるよう工夫している。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関先にベンチを置いたり、裏口に洗濯物干しを置き、日向ぼっこができるよう工夫している。また、プランターに花を植えたり、畑に野菜を植えたりして、利用者が活動的に過ごせるような環境づくりに努めている。		

Ⅴ．サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

Ⅴ．サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない
[特に力を入れている点・アピールしたい点] (日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)		